

令和4年8月12日	
資料提供	
担当	和歌山県立医科大学 【取材に関すること】事務局広報室 森口 室長・岩本 準主事（内線5731） 【内容に関すること】生化学講座 西辻 准教授（内線5251）
電話	073-447-2300（大学代表）

和歌山県立医科大学記者発表 癌の予後不良と化学療法耐性にかかわる新たな機構を発見

この度、和歌山県立医科大学からの記者発表を以下のとおり実施いたしますので、報道関係の皆様方のご参加賜りますようお願い申し上げます。

日時及び場所

日時：令和4年8月19日（金） 11:00～（約15分+質疑）

場所：和歌山県立医科大学紀三井寺キャンパス 生涯研修センター研修室（図書館棟3階）

発表者

和歌山県立医科大学 医学部 生化学講座 准教授 にしつじかずちか 西辻和親

発表の概要

生体内のタンパク質は通常、正常に折り畳まれ、生物学的な活性を発揮しています。しかしながら、天然構造を維持することができない、あるいは正常に折り畳まれなくなった場合、タンパク質は凝集し、アミロイドと呼ばれる凝集体を形成します。TP53はヒトのがんで最も頻繁に変異が見られるがん抑制遺伝子であり、その遺伝子産物であるp53タンパク質はアミロイドとしてがん組織に沈着することが我々や他のグループの研究から分かっていますが、がんの予後にどのように寄与するのかわかりませんでした。我々は今回、**p53凝集体の沈着が観察される高異型度漿液性卵巣癌患者は特に予後不良であること**、また、**p53凝集体が癌細胞によるプラチナ製剤に対する耐性獲得に寄与することを解明**いたしましたので、記者発表を行います。

発表雑誌

Naoyuki Iwahashi, Midori Ikezaki, Yoshihiro Komohara, Yukio Fujiwara, Tomoko Noguchi, Kaho Nishioka, Kazuko Sakai, Kazuto Nishio, Mitsuharu Ueda, Yoshito Ihara, Kenji Uchimura, Kazuhiko Ino, Kazuchika Nishitsuji
“Cytoplasmic p53 aggregates accumulated in p53-mutated cancer correlate with poor prognosis”
PNAS Nexus (米国東部時間2022年7月25日付けの電子版に掲載)
DOI number: 10.1093/pnasnexus/pgac128
<https://academic.oup.com/pnasnexus/advance-article/doi/10.1093/pnasnexus/pgac128/6649660>

研究サポート

本研究は科学研究費補助金・基盤研究（20K09605、22K09623、19K09784、JP18K16776）、公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団・二国間国際共同研究助成、公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団・研究助成金、和歌山県立医科大学特定研究助成、公益財団法人 神澤医学研究振興財団・研究助成金による支援を受けて実施されました。

その他

参加者の駐車スペースについては、**管理棟前の来客用駐車場**を開放しますので、ご利用ください。事前のご照会等につきましては、広報室担当者までお問い合わせください。